

特 240

309

戦時経済講話集 (第一輯)

長期建設と財政経済の前途

大口喜六述

696

刊社政行工商

30

1

始



特240
309



長期建設と財政經濟の前途

大口喜六述



私は御承知の通りの経過を経て居るものでありまして、別に財政經濟の學問などがあるものぢやありませんが、今日の時局は極めて重大なものであると考へまして、結局國民諸君が充分に此時局の真相を御諒解下さいまして、所謂舉國一致官民相通じまして、此共同の力で乗切るの外はない。斯ういふことを感じて居りますので及ばすながら自分の今日迄経過致して來ましたことを有態に皆様に申述べまして、御参考に供し又皆様方から御注意等を承りたいと考へました次第であります。

先づ一通り此の日支事變が起りまして以來、何ういふ政策を政府が執つて參つたか、其経過等を一つ申上げまして現在並に將來何ういふ態度を執らねばならぬのであらうか、又私個人の考へをも加へて申述べて見たいと考へるのであります。一昨年御承知の通り此日支事件が起りました當時は、政府に於きましても所謂不擴大主義、成るべく現地で解決して戰爭を大きくしないようにといふ方針を執られたのであります。然るに蒋介石政權が極めて頑迷でありまして御承知の如く我國も引くに引かれぬ事情からして、段々戰爭が大きくなつて參つたことは私が申す迄もないと思ひます。さういふ譯でありましたから、最初愈々戰爭が何うしても大きくな

り大決心を致さねばならぬと考へました時に、先づ第一に政府の考へたことは、此戦争に必要な物資を何うして之を供給するか、此供給は何處迄も確保しなくちやならぬ、何うして供給するかといふことであつたと私共考へるのであります。もう一つは此金の方の問題であります。戦争に要する所の費用戦費を何うして行くか、此二つであつたと考へるのであります。私は先づ第一に物の方から一應申上げて、次に其費用の方のことを申述べたいと思ふのであります。そこで先づ最初此の戦争に必要な物資に付て考へたのであります。是が悉く日本の内地で出来るものばかりで間に合ふならば、何も心配は要らないのであります。我國內の代物だけでは間に合はない事情がある。

例へば鐵であります。此鐵の如きものは戦争が始れば、第一に必要視されるのであります。が、戦争前は何ういふ状態であつたかと申しますれば、我國でも大分製鐵事業は盛んになつて来て居りましたが、其の原料の六割といふものは殆んど外國から輸入して居つたのであります。さういふ事情でありますから、愈々戦争が始つて我が内地で生産するものだけで此の大きい戦さに間に合へば宜いのであります。けれども間に合はないとすれば、出来るだけ之を外國

から入れなくちやならぬ。さうなるといふと貿易上に於きまして、そこに輸入超過になつて参るのであります。勿論輸入が幾ら殖えましてもそれに應じて輸出の方も殖えて参りますれば、何も心配はない譯であります。が、戦争の時に當りまして輸出の増して行くといふことは甚だ困難である、それにも拘らず輸入の方はドンドン殖えて行くのでありますから、此の輸入超過に對しては何うして支拂をするか、之を考へねばならぬ。そうすれば今日の事情に於きましては金を現送するの外はないのであります。

理窟から申しますれば、色々なやり方がありませうが、此方の必要なものを右から左へ受取らうとすれば、今日の世界市場に於きまして金を現送して金で支拂ふの外はない、所が我國の有つて居る金には限りがあります。一昨年支那と事件が起りました時、日本銀行がもつて居りました所の正貨準備、即ち此金を一匁十四圓幾らに積りまして約八億一千萬圓あつたのであります。其外に政府の手持の金も幾萬かあつたのであります。兎に角昭和十二年に於きまして八億六千萬圓の金を外國へ現送致しまして、漸く此輸入の超過致しました決濟がすんだやうな事情になつたのであります。

さういふ譯でありますから、此勢では毎年々々此大きな戦争を續けて行つて外國からはただけのものを輸入して居りましたのでは此決濟が出来るか何うか頗る是は疑はしい。茲に大きな問題が起つて参つたのであります。そこで戦争が始まると同時に、前にも申します通り戦争に必要な物資は何處迄も之を供給しなくちやならぬ。けれども直接戦争に必要な物資で外國から買つて居るものも澤山あります。之を成るだけ外國から入れないやうにしよう、斯ういふやうな政策を執るやうになつたのであります。是は諸君も御承知の通りであります。何に先づ眼を着けたかと言へば、第一に眼を着けたのは棉花であります。綿であります。第二は羊毛、羊の毛であります。第三は木材であります。此三つのは是迄外國から日本へ輸入して居りますもの、最も金額の多いものであります。棉花は御承知の通り、昭和十年、十一年も約八億五、六千萬圓を外國から輸入して居つたのであります。是が輸入品中最も金額の多いもので、其次は羊毛で是が戦争の當時輸入致しました額が約三億圓に達して居ります、さういふ事情でありますから、先以て棉花羊毛といふものゝ輸入を防がう、之に木材約八千萬圓、是も防がう斯ういふことになつたのでありますから、棉花、羊毛、木材といふものゝ輸入を相當に極端な

制限を加へ統制を致して輸入を少くすることにかゝつたのであります。

其當時、商工省に於きましては、突然法律等を以て之を統制するといふことは宜しくないから、成るだけ民間の諸君と御相談して、所謂自由統制で成るだけ之を外國から入れさせないやうにしようといふ方針を執られたのであります。何うも是はうまく行かなかつたのであります。此統制法の内には上手に潜つて外國から棉を輸入する人等が出來ましたり、種々なことがありました爲に、政府の考へました統制はうまく行かなかつた、そこで政府は是は已むを得ないといふので次第々々に此統制を嚴重に致したことは諸君も御承知の通りであります。それ故に此一般國民から申しますれば、今迄使つて居りました所の綿も思ふやうに使ふことが出來ない、随つて木綿織物等も自由に使へない、今日ではステールファイバーの入つたものしか吾の手に入らない、斯ういふことになりました。非常に不自由を感じられた譯であります。兎に角此統制が次第々々に嚴重になりました結果は、貿易上には辻褄が次第に合つて参つたのであります。昭和十二年が終りまして、昭和十三年の初に當りましては政府の企畫院で相當に計畫を樹てまして、昭和十三年は是だけのものは何うしても必要であるから輸入しなければな

らぬ、これこれのものに對しましては、此程度迄制限を致しまするが此程度の輸入を許す。又輸出も、何うしても是だけは輸出せしめるといふやうな計畫を樹て、辻褄を合はせにかゝつたのでありますが、やつて見るといふと大分其見當が違つて參つて、輸入の方が一段と殖へて參り戰爭に必要なものは、最初考へた以上に必要が生じて輸入を致さねばならぬ。

然るに外國に賣る輸出の方は思ふやうに行かない、思つたよりも出ない、そこで其差額が非常に多く生じて參りまして、政府が初めに計畫した以上の輸入超過になる。此勢ひで金の現送を外國に致しましたのでは到底日本の力ではやり切れない、何んとか之をしなければならぬといふので、昨年三月から一層此輸入統制が嚴重になつた譯であります。それから一面には此物價に付いて考へられたのであります、何うしても此戰爭が始まりますれば、物を多く使ひまするから物は減り少なくなる、そこへもつて行つて只今申したやうな事情で外國から入るものを防いで入れませぬ、原料が少くなる、原料が少くなるから製品も少くなる譯で、そこへ行つて——後に話をしますが——戰爭に必要な經費を政府が計上致しまして日本銀行行せしめ、それを民間に振撒いて軍需品を製造せしめた、随つてそこに紙幣が多

ますから、物價は自然に騰貴する譯であります、それでなくとももう戰爭が始まれば物價が騰貴するものゝやうに考へられて、段々物價が騰つて來る傾向があります。

之を自然に放任して置けば物價が高くなる、高くなる程日本製品が外國に賣れなくなる、輸出は益々減る、輸出が減れば輸入も少くなるから、戰爭で必要なものを外國から要るだけも入れられない事情になるのでありますから、それから申しても、物價の騰することは宜しくない、そののみならず、物價が騰れば、物を造りますにも、政府はそれだけ豫算を多く組まねばならぬ、豫算を組めば組む程公債の發行を大きくしなければならぬ、公債を多く發行すればする程、紙幣が多く出ますから益々物價は昂る、益々物價が昂れば、前にも言ふ通り輸出が益々減つて參る、斯うなつて來れば結局俗に言ふ悪性インフレーションになるのであります、是で行けば何うしても此戰爭を長く繼續する上に於て、大不利益となつて參りまするから、之を抑へなくちやならぬといふので、此物價の統制といふことが行はれまして、物の値段を上げさせないやうにした。随分無理な仕事で、道理から言へば昂るべきものを色々な力で抑へて物價を上げさせない所の政策を執つて參つたのであります。是も尠からず國民諸君には御不自

由御迷惑がかつたでありませうが、併し此政策を行ひました結果は、割合には物價は騰貴しなかつたのであります。今日物價は御承知の通り騰貴致して居りますが、兎に角急激に財政が膨服し、急激に代物が減つて参つた割合に先づ比較的物價の騰貴は少なくて今日迄濟んで参つて居り、即ち今の悪性インフレーションといふ如きものは起らずに今日迄來て居る。

斯ういふ事情に相成つて居るのであります。然らば、是で宜いのかといふと決してさうではないのであります。是からが色々皆様方と御相談致したい點であるのであります。即ち只今迄言ふて参りました、以上述べたやうなことは一口に申せば、所謂應急手段で丁度火事が始つた何んでも火を消さねばならないといふので、ポンプを持出し水をかけ鳶口で家を砕くといふ此仕事を今日迄やつて是ならばと戦争に間に合ふやうにやつて來たのでありますから、細かく研究をして見ると或は砕かないでも宜い軒を少し位は砕いて居るかも知れませぬ、消さなくとも宜いものにポンプで水をかけたやうなことが多少ないとも限りませぬが、今日迄は應急的手段として、兎に角是で火を消すことだけの仕事は或程度迄致して來たといふ状態であります。所が幸ひ戦争は私が申す迄もありませんが忠勇義烈なる我陸海軍將士諸君に依りまして連戦連

勝、最早支那の中原とも言ふべき樞要なる所は、我皇軍の占據する所となりました是から先も無論戦争はありませう、今迄のやうな大きい戦争があるかないかは別と致しましても、兎に角戦争は未だまだ續くものと考へねばなりません、之をやりつゝ我國は是から先は政府が聲明致しました通り長い間を期して所謂長期の建設にかゝらなくちやならぬ、今迄は交戦でありましたが、是から先は少くとも長期建設にかゝつて、東洋の平和を維持する源を建てなくちやならぬ、斯ういふことになつて参つて居るのでありますから、是から先は何うやるのか、そこに政策の上にも相當な變化がなくてはならぬ、斯ういふ次第に立到つて居ると私共は考へて居るのであります。

そこで先づ第一に考へますことは、今日迄は前申しましたやうな應急的手段並に忠勇なる將士諸君に依つて戦争は有利に展開して参りましたが、それに依つて費しました所の物資といふものは決して少くないのであります。それで其點を申述べますと、皆様も直に御諒解下さることと思ひますが、只今は交戦中でありまして申すべきことでないであります。それ故に私は此處に其實例等は申上げませぬが其費しました物資の多いことは、實に諸君が御想像以上

であらうと私共は考へます。私等は最初戦争の起りました當時、臨時議會に追加豫算が出ました頃も今政府が言つて居られる以上に物資も要る、金も要る、餘程大決心をせねばならないといふことを議會に於ても論じました一人でありまして、其頃から相當の考へをもつて居つた積りではありますが、色々政府の委員等も致して居ります關係から、種々の此内容を承つて見ますといふと、私等も想像以上に物資が費ひ拂はれて居る事實があります。

是は何うしても此軍事上から申せば補充を致さなくちやなりません、併し隨分此日本の民間の經濟力も強くなつたものでありまして、私共が考へ、政府の考へたよりも猶以上に民間に色々なストックの貯藏があつたのでありまして、此軍事上に於きましても、矢張國家には相當な貯藏を致して居つたことは事實であります。さういふものも相當に今日迄使はれて居ります。故に之を一日も早く補充しなくちやなりません。或はロシアと戦争が始まるか始まらないかそれ迄吾々は今日窺知すべきことではない、又日本が今日直にロシアと戦争しようと考へて居る譯でもないとは思ひますが、併し國家としては國を護る上に常に一通りの備へはなくちやなりません、此點から申しまして、此補充をする時には容易ならざる今日物資が要ると私共は

考へます。それから更に進んで支那との戦争は前申す通りに續きます。更に四圍の狀況を考へますと、又一層吾々は緊張せねばならぬ點があるのであります。是等のことを綜合して考へますと我國は是からは充分用意してかゝらねばならぬ所の國防上の仕事といふものは少くないのであります。

然らば之に要する所の材料が何の位全部で要るのであるか。何の位外國から入れねばならぬのでありますか。更に内地で是から造り上げるとすれば何の位のもので出来るか。段々さういふことを研究し、計算して参りますると頗る我國民は重大なる決心をしなければならぬことに遭遇して居ると思ひます。是から政府に於きましては、企畫院に於て、是等に對しまして四ヶ年計畫といふものを樹てました、細かいことは發表することは出来ないことになつて居りますが一通は新聞紙上に發表され、諸君も御承知のことであると思ひます。是から先の四ヶ年繼續事業、是が何うなるかといふことを考へましても、一通りでは到底是は甘く出来さうなことはない、餘程の工夫を要するのであります。例へばさういふ計畫中にはよく話の出る鐵のことでありますとか、石炭、石油其他金屬でありますとか色々ありますが——此物資だけは新聞紙

上にも現はれて居るのでありますが——尠くとも是等の代物に對しての今政府の計畫を樹てただけのことはやり通さなければならぬことは最早明瞭であります。するとそれに順應するだけの日本には生産力があるか何うか、斯ういふことになつて参りますが、そこで、あつてもなくても何うしても、是はあらせてやらなくてはならぬ。斯う考へて色々な計畫を樹て、参りまするといふと一般産業の部分に次第々々に喰込んで來るのであります。セメント事業が設備があつて、手があいて居る、働いて居ない、さういふものに對して今申すやうな四ヶ年計畫の仕事をもつて來て鐵をやるといふことになれば結構であります。

それは勿論やるべきであるが、もつともつと進んで現在他の産業をやつて居るものでも其一部分をも割いて此計畫の中に入れなくちやならぬやうなことが起らぬとは限りませぬ、或部分には起らざるを得ないと思ひます。然らばそれで是が満足に行けるから宜いとしませぬ、一面に於ては其計畫を充たすことは出來ますが、それと同時に我國の經濟力を縮めることになつて來ないとは限らないのであります。これが最も私の我國の將來に付て研究を要する點で極めて重要な研究でなくちやならぬと思ふのであります。

例へば昭和十三年に於きましては、前申しました通り、政府が經濟統制をして外國から入れる軍需品以外のものは成るだけ入れないと、爲替の統制等をやつて貿易が何うか斯うか、バランスが合つて例へ六千萬圓でも貿易表の上から行けば輸出超過になつたとは申せ、併し其内容を研究して見ますると、決して輸出が殖へて参つて居らぬ、即ち我國の商賣が盛んになつて來て貿易のバランスが合つたのではありませぬ、結局輸入を減じた結果、輸出も減つて居る、貿易が縮んで來たのでありますけれども、輸出が減つたよりも輸入を減じた方が多い結果として表の上は斯やうになつたのであります、決して商賣が盛んになつて來ましてバランスが均衡が得られた譯ではありませぬ、寧ろ商賣が縮んで來て居るといふことは事實であります。

随つて我國の經濟力が縮んで來る輸入力が殖へた譯ではない、寧ろ輸入力は減つたのでありますけれども、軍需品以外のもの、輸入を防いだことが大きかつた結果、茲に至つたといふのでありますから、是は何處迄も長期に耐へて行かうといふことは頗る困難と言はざるを得ぬのであります、殊にもう一つ茲に申述べて置きたいのは所謂、圓ブロックの貿易即ち滿洲とか、支那とか關東州とかいふもの、貿易であります。

是は申す迄もなく、金爲替を以てやり取りをするのではありませぬ、日本が支那から物を買ひましても満洲から物を買ひましても、金で拂ふ必要はないと同時に、彼方へ日本の物を賣りましても向ふから金爲替を受取る譯ではありませぬ。所謂紙幣と紙幣との商内でありますから内地で商内をすると同一であります。然るに我國は所謂第三國に對しましては輸入超過であります。支那とか、關東州の貿易に於きましては莫大なる我國は輸出超過になつて居るのであります。一昨年も三億圓以上の輸出超過があつたのであります。去年は寧ろ多くなつて四億圓以上の輸出超過であります。是だけのものは紙幣で受取つて金で受取つたのでありませぬが、我國の貿易全體の表から見ると昨年の出と入とが合つて、寧ろ輸出超過に六千萬圓になつて居りますけれども、其内の支那、關東州、滿洲の貿易は紙幣で遣り取りするんだから之を差引いて計算しまするといふと、第三國に向ひましては尙且五億圓近い所の輸入超過になりまして金の現送を致さねばならぬ事情に相成つて居るのであります。現に前に申しました日本銀行が持つて居つた正貨準備八億一千萬圓の内、三億圓を割いて昨年外國に之を現送致しました、即ちアメリカ、紐育の日本銀行支店に預入をして貿易上に於て輸出をする原料を外國

から仕入れる時の資金に流用する意味に於て之に充てたのであります。是が次第々々に費ひ拂はれて居りまして只今何の位残つて居りますか、略推測は致して居りますが此額は申上げないことに相成つて居ります。兎に角幾らかは残つて居りますが、一年是で費はれて居ります。だから内地に残つて居ります所の日本銀行の正貨準備といふものは只今五億一千萬圓に減つて居る譯であります。さうして金は何れ位昨年出たかと申しますると二億三千萬圓産金をする計畫でありましたが何うも是も思ふやうに参りませぬので、只今の所は約二億圓あつた様子であります。而して、茲に申す通り五億といふ金の現送を致さねばならぬ結果に相成つて居ります。

斯ういふ譯でありますから、去年は色々な統制をされ貿易が合つて居るやうに、表の上では見えますが、内容は今言ふやうな譯で而かも我國の經濟力が縮んで行く勘定でありますから、茲に大なる一つの決心を必要として來るのであります。そこで此軍需工業と雖も矢張工業は工業であります。随つて一般國民諸君が軍需工業に従事して下すつて軍事上必要な、只今申したやうな仕事を何處迄も之を熱心にやつて、四ヶ年計畫を完全にやるやうになつて來れば其方は

非常に有益でありますけれども、併し經濟上から言ひますと、之に依つて出來た代物は消費されるものが、ストックさるゝものであつて、貿易品を外國へ出して外國から金を取つて來るものではありませぬから、直にそれが爲に輸入力を變化する譯には参りませぬ。

だから此輸入力の増すといふことを何うして防ぐか、是が一つの問題となるのであります。斯ういふ風に考へて参りますと、今日最も必要と致しますのは二つの問題になつて來ると思ひます。即ち一つは第三國へ對して輸出を増進すること、之を何うしてやるか、是が一番の問題であります。今一つは支那、滿洲、關東州といふが結局は滿洲支那に向くのであります。支那滿洲殊に支那に對する經濟工作の將來を何うやるか、此二つに將來は歸着する、此二つが甘く行けば何も心配はありませぬ、何年でも我國は續いて只今の計畫を進めて行くことが出来るのであります。茲に問題が集中して來ると思ふ、所が此輸出でありますが世界は銘々此經濟「プロツク」をつくつて自給自足をやつて外國のものは成だけ自分の國に入れさせないといふことをやつて居ります。殊に日本は非常に今日は不利でありまして、日本の貿易といふものは進出し悪いのでありますから何うも第三國に對する輸出の増進は言ふべくして行はれないやうに考

へる方が多いのであります。所が私共をして言はしむれば日本の代物が良くて、安ければ何んと外國で申しまして何んとかして外國へ發展して参る。戦争が始まらない前のお話であります。私は南洋地方から丁度比律賓に参りまして、それから南方の支那、丁度廣東の戦争がありましたあの邊から厦門、仙頭あの邊の經濟調査等を致して歸つたのであります。其頃此比律賓に面白い話がありました、彼方に居ります華僑、支那の大きな商人は所謂日貨排斥日本の代物は扱はない、日本の代物は賣らない、斯ういふことを盛んにやつたのであります。

所が之を利用して却つて日本の商人といふものが盛んに比律賓に發展を致したのは事實であります。即ち其當時は日本の商品が安くて物が良いのであります。安くて物の良いのを排斥したのでありますから、支那の華僑は大切な良い商品を自ら放棄し、其商權を失つたのであります。所が日本の商人は此機を利用して、安くて良い日本の代物を以て支那の華僑に對抗して賣込んだものでありますから、非常に發展を致したのは事實であります。是は當時私は總領事を致し始め領事諸君並に此實業に關係して居ります日本人諸君の手に依りまして、相當の調査を致して此方に歸つたのであります。是は事實であります。さういふ譯でありますから、如何に困

難でありまして、我國民が戦争に出て第一線で戦ふだけの決心を以て進みますれば、幸ひに良い代物で安ければ外國へ出ないことはない、然らば何うすれば良い代物が出来るかといふことが極めて貴重な問題になつて來ると思ふのであります。私は一昨年戦争が始められた當時棉花の如きもの、綿の如きものは成程外國から多く買つて居るものではありますけれども亦其棉花に依つて製造した所謂綿製品が最も多く外國へ賣れて居るんでありますから、大部分原料となるものであるから、矢張私は今迄通りドンドン入れたらば何うであらうか、其代り日本國民は商人と雖も所謂銃後の國民は自ら第一線で戦争をする心持をもつて今迄以上に良い物を安く造つて外國へ賣出すことをして、經濟戦に打勝つて行かなくちやならぬではないか、と考へまして其考へた通りを議會等で申述べて、其意見を主張したことがありましたが、是は行はれませぬで只今申した通り棉花の輸入は統制されるやうになつて參つたのであります。所が一つ考へて見たいことは、前に申した日本の國民諸君が悉くさういふ心持になつてやつて下されば、今日でも綿をドンドン入れまして、それで安い良い綿製品を外國へ賣出した方がよいのであります。併し前にも申した通り、戦争が始まれば物價は先づ騰るものゝやうになつて居る所

へもつて來て、通貨が殖へ札がダブダブして來る、物價は昂る、國內の物價が騰るから別に骨を折つて製造した代物を外國へ賣るよりも樂に日本の内で賣つた方が儲かるといふので、眼前で多く賣れるといふ此利益に眼が眩んで、國內で賣る、又國民諸君がそれをよいことにして扱はれるといふことになれば、此政策は全然打破られまして益々戦争をして困難ならしむるに至るのであります。だから國民諸君が能くそこを考へて下すつて綿製品の如きも、内地で使つてはいけない、吾々は節約の外はない、少しでも多く外國へ輸出しなければならぬといふことになれば私が今申す政策が行はれるのであります。所が何うもやつて見た様子が前に申したやうに甘く行かなかつた、それは私の言ふやうな自由に棉を入れることがいけなかつたかも知れないのであります。今日法律に依つて統制されて居るのも矢張其結果であります。商工省では愈々「リンク」制を設けて御承知の通り、確かに外國へ輸出したものに對しては其輸出した割合に依つて原料の輸入を許して居りますが、斯うなると却々甘く伸びて參りませぬ。

茲に於て私は二つの大きい國民諸君の理解を必要とすることを考へざるを得ませぬ、所で此頃の商店には暴利等の取締の關係上何れも定價が付いて居る、定價が付いて居るがそれを買つ

て目方にかけて見るといふと目方の方が少ないのが随分發見された事實が諸方にあります。是は矢張高い値段を取ると同じであります。さういふ風に國民がなつて來れば矢張物價は騰貴する、物價が騰貴すれば外國へは賣れなくなる、さういふ所へ外國から原料を入れてやらせても國內で賣つて儲けて終つて、國民が消費して終ふから是では政策は破れざるを得ぬ、斯ういふことでありますから、深く是はお互に戒めねばならぬことではないかと考へるのであります。即ち前にも申した通り棉は八億五、六千萬圓、一年に輸入致しますが綿製品は一昨年如き七億圓以上外國へ賣れて居つたんでありますから、棉を八億六千萬圓入れた所が七億以上は矢張輸出して居つたのでありますから、もつと馬力をかければ相當に甘く行ける譯だと思ふが、只今のやうな結果を見るといふことになるならば、是は政策を破ることになる、是が餘程將來の輸出貿易を旺ならしむる上に重大な問題だと私は考へて居ります。

それから支那に對する問題でありますが、是が又却々難しい問題に相成つて居ります。支那が買つて呉れて日本のものがドンドン賣れて行くなれば矢張輸出だからよいではないか、といふのは普通な考へでありまして私共も出来るなら、それが宜いと思ふのでありますが、前にも申

します通り、支那と滿洲に對しましては物を賣りましても金で取れる譯ではありませぬ、紙幣で取るのでありますから金爲替の勘定の上には何等の役に立たない、そこで多く彼に物をやれば向ふで消費されるのであるから、日本が成るだけ物を使はないやう節約して居る所から見れば逆になるから、政府は據所なく支那滿洲に入れる輸出の制限を致して居るやうな譯であります。頗る理窟に合はないことであるが、實際上已むを得さういふことにして居る、然らばそれで宜いかといふとそれでも實はよくない、日本の品物をドンドン支那に向けることにならなければ、實は日本の支那に於ける貨幣價値を維持することが出来ない道理であります。茲に一つの大きな悩みがありますが、是には何うしても支那から出来るだけ彼方のものを取る必要があります。是には今度色々委員等も出來まして夫々計畫が樹つことであらうと思ひますが、之を成功せしむる爲には矢張相當此方の決心が要ると思ひます。之には實は外交上の問題等もお話せねばならぬこととなります。先づ今日の事情を申しますれば北支、中支、南支とは大分夫事情が違つて居ります。此ことも段々お話するには所謂彼方の法幣等のお話も致さねばならぬと思ひますが北支の方は次第々に先づ順調に行きつゝあらうかと考へますが、中支に參る

りますれば却々さう参つては居りませぬ、彼方では日本から軍事上必要なもの等を買ふ時は日本の所謂紙幣で拂ひます。矢張其紙幣其軍票に依つて日本の物を賣つてやらなければ其紙幣の價値は保てない譯でありますが、それに對して支那の蔣介石の法幣が今以て行はれて居つて之には英國等の支持があるのであります——之に對抗して行かねばならぬのであつて、茲には餘程の英斷を要すること、私共は考へて居ることがありますが、何れ是は政府でも相當の方策を決めてやられることゝ考へます。

兎に角此支那の經濟工作が進むことが最も必要でありまして、是と外國に出る輸出とが相併行して進む必要がある。斯やうに大體は考へて居ります。此お話は此程度に致して置きまして、更に出来るだけ簡單に此通貨の方の戦争に必要な方のお話を致しますと、段々結論を申げることが出来るかと考へるのであります。

そこで戦争の費用の方でありますが是は戦争の始まりました最初の年が約二十八億圓でありまして、其内一億圓ばかりは増税になつて居りますが、残りの二十七億圓は公債であります。政府の借金で賄つて居る譯であります。さうして其年は其外に七、八億圓の公債を一般會計等

で出して居りますから、合計致しますと三十三、四億圓になりますが公債を發行することになつて居ります。又昨年は軍事費だけで約四十八億圓でありまして、其内三億圓ばかりは増税で取つて居りますし一億五、六千萬圓は其餘の雜収入が充てられて居りますが、其残りの四十三億圓ばかりは全部公債を發行して賄つて居る譯であります。さうして軍事費以外の財政に於きまして、公債が約十億圓發行されることになつて居りますから、昨年は總計五十何億圓といふ公債を發行することになつて居ります。斯ういふ大きな公債を毎年々々發行したのでは、是が果して消化し得るか何うであるかといふことは最初問題となつたのであります。是は少しも心配はありません、それは何ういふことかといふと、今の政府のやり方は公債は悉く日本銀行に引受させて居ります。此日本銀行といふ銀行は申上げる迄もなく自ら紙幣を發行することの出来る銀行でありますから、政府から何十億圓の公債を申付けられましても、其必要なだけの紙幣を印刷局で印刷して出しさへすれば間に合ふのでありますから、是は少しも心配はありません、只心配するのは先に申しました通り、新しい紙幣をドンドン印刷して公債を應募して基金が振撒かれる、同時に日本の通貨が膨脹して札が段々殖へて参ると、札の値打が落ちて

物の値打が上る物價が騰貴し悪性インフレーションになりはしないか、恐れる所はここであり
ます。然らばそれに對する方策を何うするか、といふことになる。第一に考へらるゝのは出來
るならば増税であります。エライ増税が出來て諸君の懐にもつてお在でになる所の紙幣を政府
がドンドン取上げれば、それだけ紙幣が減つて参りますから通貨を縮少することが出來ます
が、さういふ増税は、幾ら増税だつて出來るものではありません。本年も此議會に増税案が出
るやうであります。先づ多くて三億圓、少くも二億圓程度であります。前大藏大臣自言
はれて居るやうな譯でありまして、何十億等といふ増税が出來るものではありません。之を何
うするかといふとは今日行はれて居る通り貯金の奨励であります。國民諸君が心懸けて貯金
をして預金をして戴けば是で通貨は膨脹は致さないのであります。幸に是が能く徹底致しまし
て、其結果として昭和十三年は割合に通貨が膨脹しなかつたのであります。毎年々々年末にな
りますれば通貨は相當に膨脹致しますが是は年末の融通の爲に極めて短かい期限の手形に依つ
て、日本銀行が大銀行に融通する結果でありまして、一月の半から末頃に大概それは回収され
て元の所に通貨の在高は戻るものであります。昨年冬は遂に膨脹致しまして、御承知の通り

通貨發行高が二十八億圓を超へたと思ひますが此頃日本銀行副總裁の發表さるゝ所に依りまし
ても、一月になりました着々是が回収されて、只今は二十二億位の程度の所にあらうかと思ひ
ます。昨年十一月頃は二十億になつたと思ひましたが二月の初頃には二十億が切れるやうにな
りましたかと思ひます。すれば之を昨年春に比べて先づ二、三億位の通貨は膨脹を致して居
りますが、澤山な公債が發行された割合には通貨の膨脹は少ないのであります。是で持續する
ことが出來れば洵に結構であると私共は考へて居ります。何故貯金をなされば通貨が膨脹しな
いか、是は私が申す迄もないことではありますが、一應此根本を申述べて見ますれ前に申した通
り、日本に於て紙幣發行の出來ます銀行は日本銀行以外にはありません。そこで政府が日本銀
行に向つて五億圓の公債を發行するから之に應ぜよと、政府が日本銀行に命じますれば日本銀
行は之に應ずることになつてさうして政府から五億圓の公債證書を貰つて其代りに印刷局で印
刷した新しい紙幣を持つて來て政府に之を渡すのである。

所が日本銀行といふ銀行は法律から申しますれば、古い紙幣を使つても差支ないのでありま
すけれども——何年前でありましたか、片岡直温君が大藏大臣時代に此古い紙幣を整理する必

要上から内規として古い紙幣は使はないことに致して居ります——だから私共が日本銀行へ金を受取に参りまして、一千圓受取るとすれば、印刷局で印刷したばかりの耳の所がピンピン立つた新しい紙幣を渡して呉れます、其受取つた新しい印刷したての紙幣をもつて直ぐに日本銀行の違つた窓口に行つて預金に致しますれば、是は日本銀行は此紙幣は再び使はないのであります。さうして是は焼棄て終ふ、古い紙幣として焼棄て、終ふのであります。吾々個人で言へば一圓札一枚でも焼棄てる人はありませんが日本銀行は紙幣の番號を一々整理致して居りますから、幾ら焼きましたも紙代と印刷代だけで吾々のやうな損はない、それだから古い紙幣は一切使はない。だから日本銀行が今日は支拂つた金の方が多かつたといふことであるならば、多く支拂つただけそれだけ日本の通貨が膨脹した日であります。之に反して今日日本銀行の取入れた方が多かつたといふ日があれば、其多く取入れただけそれだけ日本の通貨が縮少した日であります。だから五億圓政府が公債を發行して日本銀行から五億圓の新しい紙幣を受取れば、其日は五億圓日本の通貨が膨脹する道理であります。所で其通貨が諸君の懐に入り諸君が郵便貯金をなされば郵便貯金は大藏省の預金部に参ります。大藏省の預金部は其金を自分でもつ

て居りませぬ、必らず日本銀行へ預金を致します。日本銀行の手に入つたら其紙幣は焼棄てられまして、それだけ日本の通貨は縮少する譯であります。諸君が銀行に預金をなさる、其銀行が更らに其金を貸出せば世の中に通用して居りますから、通貨は縮少致しませぬが、それが段々大銀行に預入られる、大銀行は紙幣を握つて居つても利益はありませぬから、日本銀行の持つて居る公債證書を假りに買ひます。買ふと其代金は紙幣で日本銀行に拂はれます、其日本銀行は其紙幣を焼棄てますから、それだけ日本の通貨は縮少する譯であります。

斯うなつて日本の通貨は再び縮少するるのでありますから、税金を取らないでも諸君が持つてお在でになる紙幣が預金されて、段々日本銀行の手に入るやうになつて参るれば、或は預金になつて入りましても、公債證書を買入れた其代金として拂はれましても、結局日本の通貨はそれだけ縮少するのでありますから、茲に通貨の膨脹は防がれインフレーションが悪性にならない道理であります。此やり方で今やつて居るのでありますけれども、本年の豫算等は却々膨脹して居ります、未だ軍事費といふものは議會に現はれて参りませぬが、少とも昭和十三年度の四十八億圓以下になるやうなことはありませぬ。だから此紙幣は所謂一旦生産力の擴充に

費はれ、前に申した四ヶ年繼續事業に費はれます。だから此軍需工業に従事し、又軍需工業に直接關係がなくとも此四ヶ年繼續の生産擴充の事業に従事せらるゝ方はそれだけの支拂を受けらるゝ譯であるから、一般に金は潤澤になります。それをドンドン費へば通貨はドンドン膨脹して所謂インフレーションは悪性に向ひ、物價は騰貴してお互に始末に困る、政府は豫算を殖さなければならぬ、同じ仕事をするにも公債を多く出さなければならぬ、札が殖へれば益々悪くなるといふ傾向になる、それを諸君が御利益をなさつても其紙幣といふものを預金にして溢りに費はないことにすれば通貨は膨脹しないで行ける、斯ういふ形でありますから將來は一層國民諸君に對して、之に對する御協力を強調致したいと考へるのであります。所で今申した四ヶ年繼續事業といふものに致しまして是が多くは先刻から言ふ國防上のことを目的とし軍事上のことを目的として計畫されたものであります。

是は元々必要な第一にやらねばならぬことでありますから私共も賛成して協力致して居りますが、其結果一般産業に何ういふ關係を及ぼすか、是が大きな問題であります。先日も座談會で一寸話たこともありますが、私等は今迄持論の如く致しまして生絲といふものを贅澤品の

やうに言はれて居るが、生絲は日本人が作つて居るものであり、少しも外國へ支拂のないものである、一家の經濟が引合へば贅澤品にならない、吾々は出来る限り絹を使ひたい、絹を使ふべきである、是を私は長い間主張して參つて居るのである。衷心から私はさう思つて居ります所が段々木綿が使はれなくなり、ステープルファイバーのやうなものだけになつて參つたといふやうな結果は、近來國內用として相當絹が使はれ、交織等に絹が用ひられて來て居ることは事實であります。殊に此數日來の様子を見ますといふと比較的の生絲の値が高くアメリカに賣れる横濱相場よりも、内地に於て二十圓乃至二十五圓位高く寧ろ買占める所の狀況があるといふことが私共報告を得て居ります。果して是が事實であるとする、そこには餘程考へねばならぬことがあります。生絲の値段が内地で餘り高くなつて參りますれば、アメリカに賣れなくなることは勿論であります。生絲がアメリカに賣れなくなればそれだけ我國の輸出力を減する譯であります。

アメリカに多く絹が賣れるとそれだけアメリカから金爲替を多く取るから、それだけ軍事に必要なものが買へるが生絲の賣行がアメリカに對して減つて來れば、それだけ日本の輸出力が

減する譯であります。だから濫りに生絲が高くなつて來るといふことになれば、相當な方法で此値段を抑へなくちやならぬ、決してさういふ現象が起らぬとは限りませぬ。

所が今言ふ通り絹は内地で出来るもので外國から少しも物を買はないで済むものでありますから寧ろさうなればもつともつと此農村に繭をつくることを奨励して何んとか繭が引合ふやうにして多く生絲を作らせ安くアメリカに出し又内地でももつと使ふやうにする途がなくちやならぬ、是も一つの研究でなくちやならぬと思ひます。斯ういふ問題は澤山あるのであります。即ち是からの四ヶ年計畫が進むに随つて、或は石炭を何うする水を何う利用して電氣をやり、それに依つて又鐵の製造をやる、銅の製造をやり、それに一般産業を結付けて大なる發達を圖る、そこに大きな改善が出來て來なければ將來は此望を達することは出來ませぬ、其根本を樹つべき今日は極めて重要な秋であると、私共は信するのであります。其點から申しますれば矢張是を一口に言へば、統制はもつともつと行はれて來るものであると考へます。

併しながら私共は統制の爲の統制は是は何うも宜しくないと思ひます。前大藏大臣商工大臣の池田氏の如きは常に之を言つて居りましたが、吾々は統制の爲の統制はしないと云つて居り

ましたが私も同感であります。併しながら今日迄のやうな自由經濟で行かれるといふと前申したやうなことは何うしても行はれませぬ、だから今日以後は支那を開發して支那の經濟工作を何處迄も進行する、それには矢張軍事上の必要がありますれば此軍事上の力を何處迄も充實し續けて行かなくちやならぬ、之には必要な物資といふものは國內で自給されるやう生産力の擴充をする、それと同時に矢張一般産業が伴つて發達する工夫が段々出來、冗を省く研究が出來何處迄も共々に相並んで進むことを國民一同擧つてやらなくちやならぬが、之を自由に放任して置いたのでは目的を達することが容易でないから、此方向に向つてはもつともつと私は統制は強化されるものと思ひます。

併しながら之には根本が確かり決つてさうして其肚の決つた所から矢張冗のないやうに仕組を立てられることが必要であります。之が明になりますれば國民も嚮ふ所が判る。それ故に物價は統制致しましても今迄は應急的手段ではいけないと考へまして、私共は物價委員會總會の決議に依つて政府に進言致したやうな譯であります。又國家總動員の委員會に於きましても、今政府がやらんとして居る所の統制は吾々も賛成を致すと同時に尙進んで一般産業の關係をも

つともつと密接にして、もう一つ大きい所から眞の日本の將來の産業國策、經濟國策の根本を樹てらるゝことの意見を具陳したやうな次第であります。

將來我日本の政策といふものは、軍事上、國防上の計畫を充實することは當然であるが、それと同時に一般産業に向つても共々に行ける所のもう一つ進んだ計畫が確立されて、それに依つて統制が完全に行はれて来る、斯ういふ傾向をもつて來なくてはならぬと考へまして政府にも色々進言をして居る次第であります。只今の總理大臣には平常はお目にかゝつては居りませんが、總理大臣におなりになつてからはまだ一度もお目にかゝりませぬ、大藏大臣、商工大臣も極めて御懇意な方ではありますが、大臣におなりになつてからは未だお目にかゝりませぬが、一兩日内に是等の諸君ともお目にかゝり得るのであります。恐らく前内閣時代に近衛首相が吾々にお答へになつたことゝ大なる方針の相違はなからうと考へて居ります。近衛首相は矢張國家總動員の委員會に於きまして、私等へのお答へには、結局只今のやうなことは考慮して其方針で行くことに努める、といふ御意見でありましたが、今の政府もさういふ方針に向つて益益進んで行かれることゝ思ひます。此點は先にも申します通り何うしても是は國民お互が深く

其ことを諒解しまして、細かい所では非常に困ることがあります。金箔の如き餘程是は御困難であらうと思ひます。勿論大切な金でありますから、使ふことが出来なくなつて事業が打撃を受けて居られるのでありませうが、國策上いけないことは已むを得ませぬ、其他のことは國策の線に沿つて共々にやつて行けることを自他共に政府も考へ、國民も考へまして共に共に一致協力してあらゆる國民の總力に依つて、此時局を乗切らなければならぬと考へて居ります。

昭和十四年四月二十五日印刷
昭和十四年五月一日發行

戰時經濟講話集

編纂者 商工省統計課

發行者 高山金一
東京市神田區小川町二丁目十番地

印刷者 龜谷良一
東京市本郷區區町卅六番地

東京市神田區小川町二丁目十番地

商工行政社

電話神田八一〇番
振替東京一三一五一五番

發行所

日東印刷株式會社印刷

戰時經濟講話集

— 定價一部五十錢 三千錢 —

第一輯	長期建設と財政經濟の前途	大口喜六
第二輯	長期建設と經濟統制	小川郷太郎
第三輯	長期建設と經濟統制の前途	高橋龜吉
第四輯	長期戰經濟の中心問題	小汀利得
第五輯	日本產業の再編成	石山賢吉
第六輯	戰時經濟の諸問題	谷口吉彥
第七輯	<small>時局の見透しと</small> 今後の我が經濟政策	石橋湛山
第八輯	戰時體制下 <small>に於ける</small> 物資の統制	佐藤謙之助
第九輯	戰時經濟について	池田秀雄
第十輯	戰時下に於ける物の經濟	小暮武太夫

發行所 工商行政社 東京神田小川町二ノ一 電話 三五五一

月刊 商工行政

共料送各〇八・四分年一 〇四・二分年半
(呈進代無部一第次込申御)

商工省
業者

の施策を迅速且的確に知る爲
の發表事項全部を知る爲に
の無二の指針として
の要望實現の爲に

強力唯一の
本誌を
讀め!

本誌創刊に際し村瀨商工次官は特に本誌の使命の重大なるを認められ本誌の必要性を力説され、左の推薦狀を各方面に寄せられた。

「商工行政」を推薦す

拜啓 爽涼之候益々御清祥奉賀候 陳者、知友前小川商工大臣秘書官 高山金一氏、今般商工官民一如の實を舉ぐべき機關たらしむる理想の下に、月刊雜誌「商工行政」創刊被致候事と相成候處、洵に時宜に適したる有意義の企圖と存候間、何卒各位に於ても、將來同誌を御利用被下候様願上候 (下略)

昭和十三年仲秋

商工次官 村瀨直養

今日は法令が中心となつて物が動いてゐる。商工省の施策を知らずしては事業は絶對に進められない。而も月々の省發表事項は實に多く、之を悉知するには非常なる時間と精力を要する。本誌は商工省と業者の間に立つて、商工行政の運行の圓滑を圖る唯一の機關紙である。長期建設目的遂行の爲、あまねく商工業關係各位に奨む。

○一ノ二町川小田神京東 社政行工商 所行發
五―五―三―一 京東替振

近刊 重要物資統制讀本

行發迄卷二第旬中月五

一圓五十錢
ヨリ二圓

書説解資物な易平るせと主を規法

15	14	16	7	13	8	5	11	10	9	4	3	6	12	2	1
ゴ	皮	廢	銅	代	化	羊	石	自	機	紙	ス	鐵	石	人	綿
品	品	品	非	用	學	毛	炭	動	車	及	工	作	機	械	統
回	收	金	屬	品	品	品	品	車	及	工	作	機	械	械	制
ム	草	屬		品	品	品	品	車	及	工	作	機	械	械	制
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
組	組	工	物	工	工	物	鐵	工	工	工	物	物	鐵	工	美
合	合	務	資	務	務	資	山	務	務	務	資	資	山	務	濃
事	事	局	調	局	局	調	局	局	局	局	調	調	局	局	部
務	務	政	整	政	政	整	政	機	機	機	整	整	機	機	洋
官	官	課	局	課	課	局	課	長	長	長	局	局	課	課	次
官	官	長	長	長	長	官	長	長	長	長	技	技	技	技	著
		長	局	局	局	官	長	長	長	長	師	師	師	師	
塚	增	本	久	白	白	今	山	橋	橋	中	岸	平	佐	岸	美
本	岡	郷	保	井	井	井	本	井	井	井	武	井	藤	武	濃
敏	尚	壽	喜	義	義	善	善	眞	眞	眞	武	富	清	清	部
夫	士	次	六	三	三	衛	茂	眞	眞	眞	武	三	一	八	洋
著	著	著	著	著	著	著	著	著	著	著	著	著	著	著	次
															著

○一ノ二町川小田神京東 社政行工商 所行發
五―五―三―一 京東替振

389
119

戰時工商關係必備書

商工行政 調查會編	商工行政 調查會編	商工行政 調查會編	轉業對策部長 鹽谷狩野吉著	燃料局技師 川村英雄監修	中外商業調查部長 前田梅松著	楠瀬常猪著	有賀祿郎著	都新聞政治部編	今村忠男著
商工省要覽	物資制限の 法規と解説	中小金融讀本	リンク制の話	液體燃料	これからの 經濟生活	時局と貿易	店員の採用と 教育の實際	東亞經濟協同體制	支那新幣制の話
六版	三次訂正 版	最新刊	新刊	好評	好評	好評	好評	最新刊	最新刊
四六判 四五〇頁	四六判 四五〇頁	四六判 七〇〇頁	四六判 四〇〇頁	四六判 三二〇頁	四六判 八九〇頁	四六判 七〇〇頁	四六判 三〇〇頁	四六判 一六〇頁	四六判 二〇〇頁

發行所 高山書院 東京小田川二丁目一〇番 振替東京八三九三

終

